

大卒「就職率」は78.0%で9年連続アップ！

“不安定な雇用”の減少傾向は続く

旺文社 教育情報センター 2019年9月19日

2019年3月に大学を卒業した57万3千人のうち、就職者総数は44万7千人、就職率(ここでは「卒業者に占める就職者の割合」)は78.0%であることが、文部科学省の『令和元年度学校基本調査速報』でわかった。景気好調の中、就職率は上昇し、「安定的な雇用に就いていない」大卒者(=「一時的な仕事に就いた者」+「就職も進学もしていない者」+「就職者のうち正規の職員等でない者」)も前年より3千人減少した。ここでは大学・短大の就職率の推移等について紹介する。

■大卒の就職率は0.9ポイントアップ

表1に大学(学部)と短大(本科)の状況別卒業生数をまとめた。

2019年3月の大学卒業生数は57万3千人。このうち、就職者総数(「大学院等進学者のうち就職している者」を加えた就職者数。以下同じ)は44万7千人で、前年より1万1千人(0.9%)増加。就職率は78.0%で、前年より0.9ポイントアップし、9年連続の上昇となった。なお、就職者のうち、「正規の職員等」は43万1千人で、就職者総数に占める割合は75.3%で前年より1.2ポイント増加した。

一方、2019年3月の短大(本科)卒業生数は、5万3千人。このうち、就職者総数は4万3千人で、前年より1千人(3.0%)減少。就職率は81.9%で、前年より0.5ポイントアップし、こちらも9年連続の上昇となった。(以下も含め、2019年度の数値は全て速報値。)

■大学(学部)の状況別卒業生数

(表1)

年度	卒業生数 (人)	就職者(人)		「大学院等への進学者」のうち 就職している者(人)		(再掲) 就職者総数(人)	就職率 [卒業者に占める 就職者の割合]
		正規の職員等	正規の職員等で ない者	正規の職員等	正規の職員等で ない者		
	A	B	C	D	E	F=B+C+D+E	F/A
2014	565,573	372,509	22,259	60	17	394,845	69.8%
2015	564,035	388,578	21,132	33	16	409,759	72.6%
2016	559,678	398,979	19,116	46	22	418,163	74.7%
2017	567,763	413,915	18,348	56	14	432,333	76.1%
2018	565,436	419,037	17,060	51	8	436,156	77.1%
2019	572,640	430,904	15,895	60	28	446,887	78.0%

■短大(本科)の状況別卒業生数

年度	卒業生数 (人)	就職者(人)		「進学者」のうち 就職している者(人)		(再掲) 就職者総数(人)	就職率 [卒業者に占める 就職者の割合]
		正規の職員等	正規の職員等で ない者	正規の職員等	正規の職員等で ない者		
	A	B	C	D	E	F=B+C+D+E	F/A
2014	58,797	38,773	5,463	0	1	44,237	75.2%
2015	59,435	41,161	5,243	0	8	46,412	78.1%
2016	57,108	40,812	4,409	2	9	45,232	79.2%
2017	56,722	42,003	3,808	0	7	45,818	80.8%
2018	54,598	41,327	3,124	1	3	44,455	81.4%
2019	52,665	40,434	2,664	1	15	43,114	81.9%

(注) ①「大学院等への進学者」=大学院研究科、大学学部、短大本科、大学・短大の専攻科・別科へ入学した者。また、進学し就職した者を含む。
②就職者のうち「正規の職員等でない者」=雇用の期間が1年以上で期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が30~40時間の者。

なお、文部科学省・厚生労働省は毎年4回（10・12・2・4月）実施する「就職状況調査」結果によるもののみを「就職率」としている。この文部科学省・厚生労働省の調査は62大学・20短大の抽出調査によるものであり、ここでの「就職率」とは「就職希望者に対する調査時点での就職者の割合」だ。ちなみに2019年4月調査（5月17日公表）では、3月卒の就職率は、大学が97.6%、短大が98.6%となっている。『学校基本調査速報』の「卒業者に占める就職者の割合」の数値とは異なっているので注意を要する。

■「安定的な雇用に就いていない」大学卒業者は3,000人減少

表2に大学（学部）と短大（本科）卒業者のうち「安定的な雇用に就いていない者」についてまとめた。

大学（学部）卒業後、「一時的な仕事に就いた者」は8千人、「就職も進学もしていない者」は3万8千人、「就職者のうち正規の職員等でない者」は1万6千人で、これらの合計（＝「安定的な雇用に就いていない者」）、つまり“不安定な雇用者”は、6万2千人。大学卒業者の10.9%（前年度、11.6%）を占め、減少傾向が続いている。

また、「就職も進学もしていない者」3万8千人のうち、「進学準備中の者」は2千人、「就職準備中の者」は1万9千人だった。

一方、短大（本科）卒業後に「安定的な雇用に就いていない者」は7千人で、短大卒業者に占める割合は13.2%（同、13.7%）となっている。

■大学(学部)卒者のうち「安定的な雇用に就いていない者」

(表2)

年度	卒業者数 (人)	一時的な仕事 に就いた者(人)	就職も進学も していない者(人)	就職者のうち 正規の職員等でない者 (人)	安定的な雇用に 就いていない者(人)	安定的な雇用に 就いていない者の割合
	A	B	C	D	E=B+C+D	E/A
2014	565,573	14,519	68,484	22,276	105,279	18.6%
2015	564,035	11,730	58,102	21,148	90,980	16.1%
2016	559,678	10,184	48,866	19,138	78,188	14.0%
2017	567,763	9,183	44,182	18,362	71,727	12.6%
2018	565,436	8,684	39,854	17,000	65,538	11.6%
2019	572,640	8,165	38,229	15,895	62,289	10.9%

■短大(本科)卒者のうち「安定的な雇用に就いていない者」

年度	卒業者数 (人)	一時的な仕事 に就いた者(人)	就職も進学も していない者(人)	就職者のうち 正規の職員等でない者 (人)	安定的な雇用に 就いていない者(人)	安定的な雇用に 就いていない者の割合
	A	B	C	D	E=B+C+D	E/A
2014	58,797	1,778	5,409	5,464	12,651	21.5%
2015	59,435	1,414	4,899	5,251	11,564	19.5%
2016	57,108	1,360	4,009	4,418	9,787	17.1%
2017	56,722	1,173	3,686	3,815	8,674	15.3%
2018	54,598	979	3,354	3,124	7,457	13.7%
2019	52,665	950	3,353	2,664	6,967	13.2%

(注) ①「就職も進学もしていない者」＝家事の手伝いなど就職でも、「大学等への進学者」や「専修学校・外国の学校等入学者」等でもないことが明確な者。

②就職者のうち「正規の職員等でない者」(H24年度より新設項目)＝雇用の期間が1年以上で期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が30～40時間の者。

③「安定的な雇用に就いていない者」＝「就職者」のうち「正規の職員等でない者」+「一時的な仕事に就いた者」+「進学も就職もしていない者」。